

研修会報告

国際通貨基金 (IMF) の機能と役割等について

“Functions and Roles of International Monetary Fund“

講演者：国際通貨基金 (IMF) 日本理事 水口 純 様

研修担当理事：須内 康史
上坪 雄之

2024 年 9 月 6 日 (金)、ワシントン日本商工会は国際通貨基金 (IMF) 日本理事の水口純様をお招きし、IMF の機能と役割等について、オンラインと対面のハイブリッド形式の研修会を開催しました。

同じワシントン D.C. にいながら、これまであまり接点のなかった IMF とワシントン日本商工会。本研修会に先立ち、水口理事と商工会理事の間で意見交換会を実施し、今後お互いに接点を増やしていくことを確認しました。その一環として、10 月の IMF 世界銀行年次総会のご準備でお忙しい中、今回水口理事から IMF の機能と役割等についてご講演の機会を頂きました。



水口理事は 1987 年に大蔵省 (当時) に入省、その後、本省勤務だけでなく、アジア開発銀行 (フィリピン) や国際決済銀行 (スイス) での海外勤務も経験され、東海財務局長や財務省大臣官房政策立案総括審議官等の要職を歴任された後、2022 年に IMF 日本理事に就任されました。



研修会では IMF の組織と目的並びに IMF が果たす 3 つの役割と機能、すなわち①マクロ経済政策運営の調査・分析と政策提言 (サーベイランス)、②通貨の安定や外貨準備の再構築を図るための融資の提供、③主に中低所得国の経済発展を支援するための政府機関や中央銀行に対する能力開発支援、について詳しく解説を頂き、国際社会の中で IMF が果たす重要な役割を理解する絶好の機会となりました。

その後の質疑応答を含め、研修会を通じて水口理事が特に熱く語っておられたのが、現在取り組まれている IMF で働く日本人職員の増加に向けた様々な活動です。日本は米国に次いで出資比率 2 位 (6.5%) である一方で職員比率では僅か 2.5% となっており、IMF の職員数において日本は大幅な過小代表となっている実態があります。今後日本が IMF に有意な貢献を続けていくために日本人職員の採用増は極めて重要、との考えのもと、水口理事自ら日本の大学や高校に出向き、SNS も含め、IMF で働く意義や魅力を精力的に発信されていることに感銘を受けました。

水口理事のご尽力が将来実を結ぶことを商工会として強く祈念しつつ、ご多忙の中この様な貴重な機会を提供頂いた水口理事に厚く御礼を申し上げます。

以上

